

質問と観察		最近1週間に関する質問： 「憂うつなことはありませんか?」, 「それはひどかったですか?」, 「しばしばありましたか?」				
		なし	軽度	中等度	重度	極度
1. 抑うつ	<p>面接時の実際の行動(落胆した姿勢, 悲しげな容貌, 失意の底にあるかのような態度など)だけではなく, 包括的な抑うつ症状と, この感情の異常が精神状態に与える影響を臨床的に評価する。面接で観察された抑うつと最近1週間に観察された抑うつ気分との間に違いがある場合には, より重症なほうに評価する。</p> <p>=気分の落ち込み</p>	0 面接時正常な態度と行動。抑うつ的な症状はきき出せない。	1 抑うつ症状(時折ふさぎ込む, 気力不足など)が少しあるが, 病的とはみなせない。または, 臨床的意義を持つには至らない普通の性格特徴とみなせる。	2 臨床的に抑うつと考えられるが, 軽度である。最近1週間にかんがりの苦痛を引き起こすか, あるいは日常の自分とはかなり違ったとみなされる抑うつ気分が時々あった。	3 臨床的に重度の抑うつと考えられる。または, 2で述べた抑うつ気分が, 最近1週間にしばしばあったか, または抑うつによるはなはだしい苦痛が時々あった。	4 臨床的に極度の抑うつと考えられる。重い抑うつ症状(例えば, 強い自殺念慮, 泣くことを自分で止められないなど)が存在するか, または, 最近1週間に抑うつによるはなはだしい苦痛がしばしばあった。
		最近1週間に関する質問：「不安なことはありませんか?」, 「それはひどいですか?」, 「しばしばありましたか?」				
質問と観察		なし	軽度	中等度	重度	極度
		0 面接時正常な気分。	1 患者の現す緊張が, 病的とはいえない普通の性格特徴か, または面接状況に対するもっともな反応であると考えられる。	2 臨床的意義のある軽度の不安, あるいは緊張を現していると考えられる。または, 最近1週間にかんがりの苦痛をもたらす不安が時々あった。	3 臨床的意義のある重度の不安, あるいは緊張を現していると考えられる。患者は面接に対しても不安を感じ, 安心感を与えてもらいたいと思うが, 不安によって面接が中断されることはあまりない。不安に伴って焦燥が存在することもある。または, 最近1週間にしばしばかんのりの苦痛を引き起こす不安があったか, 時々はなはだしい苦痛を引き起こす不安があった。	4 臨床的意義のある極度の不安, あるいは緊張を現していると考えられる。患者は寛ぐことができず, 不安によって面接がたびたび中断される。または, 不安に伴って高度の焦燥が存在したり, 恐怖のあまり差し迫った問題に気を取られたりする。または, 最近1週間に不安によってはなはだしい苦痛がしばしば引き起こされた。
2. 不安	<p>面接時に観察された不安の直接的な症状に加えて, 病的な不安が精神状態に与える影響についても評価する(交感神経の過活動, 湿った手のひら, 軽い振戦, 皮膚のしみなどのある種の生理学的な徴候も含む)。不安が焦燥を伴うならば, 3)以上に評価する。面接時に観察された不安と, 最近1週間に述べられた不安との間に違いがある場合には, より重症なほうに評価する。</p> <p>=不安の表れ</p>					

質問と観察		最近1週間に関する質問：「他の人とうまくつきあえますか?」、「誰かがあなたに敵対しているようですか?」、「考えを邪魔されますか?」、「テレビや新聞であなたのことを言っていないか?」				
		なし	軽度	中等度	重度	極度
3. 妄想	事実に基づかない誤った確信。	0 面接時異常が認められない。	1 風変わりな信念や些細な曲解(例えば、悪い天気は核実験のせいである)、迷信、宗教的な信念など。	2 優格観念(強い感情が伴う考えで、長時間頭から離れられないもの)、関係念慮(本来、自分と関連のない周囲の出来事が自分に関係していると感じること)、明らかな曲解、独特な意味づけ。	3 最近1カ月に明らかな妄想や妄想知覚があったと述べるが、最近1週間には持っていることは否定する。または、妄想を語るが、固定しておらず訂正可能である。	4 明らかな妄想が存在し、現在も持ち続けている。
<p>優格信念の例 妻が他人と不倫している、自分はすごい発明をした</p> <p>関係念慮の例 笑い声が自分のことを笑っていると感じる、新聞の内容が自分のことを報道していると感じる</p>						
質問と観察		最近1週間に関する質問：「誰もいないのに声が聞こえませんでしたか?」、「実際にはないものが見えませんでしたか?」				
		なし	軽度	中等度	重度	極度
4. 幻覚	最近1週間に幻覚が存在したかどうか、もし存在したならば、それは真正幻覚か偽幻覚か、さらに幻覚の頻度を決める。 =対象のない知覚	0 幻覚の症状はない。	1 幻覚体験は明確には病的といえない。入眠時幻覚、直観像、錯覚など。	2 聴覚、視覚における偽幻覚、内省に結びついた幻覚(例えば、死別に引き続くものなど)	3 最近1週間に真正幻覚があったが稀にしか起こらない。	4 最近1週間に真正幻覚がしばしばあった。
<p>真正幻覚…知覚が明らかで、外側に生じる 例：目の前にきらきら光るものが見える 後ろから自分の悪口が聞こえる</p> <p>偽幻覚…画像か音声かわからず、内側に感じる≡イメージ 例：神様と対話している自分の姿が頭に浮かぶ 自分の考えが声になって頭に響いている</p>						
観察		なし	軽度	中等度	重度	極度
5. 感情の平板化・不適切な感情	感情の平板化は、感情反応の範囲に関する障害を指す。自分の病歴を語る間患者は出来事が与えた衝撃をうまく伝えることができず、親しい人について話している間も温かみや思いやりを伝えることができない。 =感情が平べったくなったり、場にそぐわない感情を示すこと	0 面接時正常な反応を示す。	1 感情表出を伴ってしかるべき話題を話している時もぶっきらぼうで寡黙、反応に乏しい。しかし、病気の徴候というよりむしろ普段の性格特徴とみなされる。	2 臨床的意義のある軽度の感情反応の障害。重要な課題について話している時に、感情の抑揚を明らかに欠くか、または面接中時々であるが明らかに不自然な感情反応を示す。	3 臨床的意義のある重度の感情反応の障害。温かみ、あるいは思いやりが感じられない。病歴を述べても出来事の衝撃をうまく伝えることができず、将来への関心がない。または、しばしば軽度の不適切な反応が、もしくは時々高度の不適切な反応がみられる。	4 臨床的意義のある極度の感情反応の障害。どんな時も感情の反応はみられない。または、間が抜けていたり、尊大だったり、くすくす笑ったりなどといった高度の不適切な反応がしばしばあり、面接が妨げられる。

観察		なし	軽度	中等度	重度	極度
6. 精神運動減退	精神障害によって動作・反応が鈍くなること	0 面接時正常な態度と言語。質問に対してかなりすばやく答える。自発的な態度と表情の変化がみられる。	1 動作の緩慢さ、自発性の乏しさがみられるが、普段の性格特徴か、病的な段階には達していない。	2 面接時動作の緩慢さや自発性の乏しさが臨床的に認められ、それは精神障害によるものである。質問に対する答えの遅れが、普段の性格特徴ではなく、病的な精神状態の一部と考えられる場合2と評価する。	3 面接時に精神障害による精神運動減退が容易に認められ、それが現在の異常な精神状態に大きく影響していると考えられる。	4 極度の精神運動減退がみられる。
観察		なし	軽度	中等度	重度	極度
7. 滅裂思考	思考の流れにまとまりがなく、話題が突然飛躍したり、無関係の事柄どうしが結びついていること	0 思考障害の症状がない。	1 時に奇妙な応答をするが、思考障害の基準を満たすほどではない。観念間の関連を理解することは常に可能である。	2 時々思考障害の症状がみられるが、それ以外はまとまりがある。	3 しばしば思考障害の症状がみられるが、患者との意味のある会話は可能である。または時々言語が滅裂となる。	4 意味連合の方向を欠くために応答が理解できない。言語内容はしばしば滅裂となり、意味の脈絡が理解不能である。
観察		なし	軽度	中等度	重度	極度
8. 寡言・無言	発話の減少	0 言語は量的にも形式的にも正常。	1 話しかけられた時のみ話し、応答は短い。	2 時々口ごもったり、沈黙したりするが、面接はほぼ円滑に進む。または患者がぼんやりしたり、ためらったり、応答が短かったりするため会話が妨げられる。	3 単音節の応答。長い沈黙、あるいは全く応答しない。または言語量はかなりあるが、応答に時間がかかったり、ためらったり、内容を欠き、とりとめがないため、意味のある会話がほとんどできない。	4 面接中無言である。または二言三言だけ話す。あるいは絶えず小声でつぶやいている。